

「潮目をさがせ！大作戦」

宮城県仙台市立長町小学校 花淵 浩司

1. はじめに

仙台市在住の詩人今入 惇さんの詩の一節に次のようなものがある。「地図を広げてみよう。知らない地名がたくさんある。地形や伝説、人の暮らしなど地名は歴史である。」まさに、地図の世界は奥が深い。

5年生の社会科学習は、中学年での市町村、県内の学習をもとに、国内のおもな産業についての理解を深めるものである。4年生で初めて手にする「地図帳」であるが、私のつたない経験からいえば、5年生になると資料集や副読本の活用が主になり、地図帳の使用回数が減りがちであった。そこで、もう一度地図帳を活用すべく、実践を行ったのが以下の活動である。

2. 「潮目」をさがせ！

5年生の社会科の「わたしたちの暮らしと食料生産」という単元の中で、国内の水産業について学ぶ小単元がある。四方を海に囲まれた日本は近海によい漁場が広がっている。特に、わが宮城県は、黒潮（日本海流）と親潮（千島海流）の出会う三陸沖に近く、気仙沼、石巻など国内有数の水揚げを誇る漁港をもっている。

そこで、そのことを子どもたちに、五感を通して実感的に捉えさせるために行ったのが、「潮目をさがせ！大作戦」である。

「潮目をさがせ！大作戦」

- ①OHPを使って白地図を大きくトレースする。（模造紙8枚大）
- ②図工室などの広い教室に移動する。（どこでもよいが、水道が完備されている教室がよい）
- ③子どもたちは、長靴を準備させる。（全員でなくてもよい）
- ④まず、教科書などを参考にしながら、国内のおもな漁港を白地図に書き入れていく。この際、漁港の名前の入ったカードを用意しておくとうい。

⑤そこで、カードのある漁港がどうしてそこにあるかを考えさせる。（海に囲まれていても東北の日本海側や九州の太平洋側には少ないことに気づかせる）

⑥次に、バケツに赤（暖流用）と青（寒流用）2色の絵の具を用意する。そして、長靴を履いた子どもに白地図上を黒潮・対馬海流（暖流）と親潮・リマン海流（寒流）にあたる部分を歩かせてみる。

⑦歩き終わったら、その2色の部分を観察し、暖流と寒流のぶつかり合う部分があることに気づかせていく。

⑧そこ（太平洋側：三陸沖、日本海側：北陸・山陰沖）は、水揚げの多い漁港が多いことに気づくであろう。



この活動は、指導計画上はここで終わりであったのだが、子どもたちから「それぞれの海流にはどんな魚がいるのだからか？」という疑問が出てきた。そこで、発展学習として暖流・寒流を回遊する魚を調べて、その地図に魚の種類を書き入れてみた。そうすることで、それぞれの漁港での水揚げされる魚との関係や地形（大陸棚）との関係にまで気づくことができた。

うか？」という疑問が出てきた。そこで、発展学習として暖流・寒流を回遊する魚を調べて、その地図に魚の種類を書き入れてみた。そうすることで、それぞれの漁港での水揚げされる魚との関係や地形（大陸棚）との関係にまで気づくことができた。

3. 拡大した白地図、その後

拡大し、トレースした白地図での学習は子どもたちにも大変好評であった。子どもたちの感想からは、「地図の中に入った気になれる。」「頭で思ったことと（空間認識）と実際のイメージが一致する。」などの声を聞くことができた。

その後、工業の盛んな地域の学習でも同じように白地図を用いて活動を行った。このときも、工業地域や地帯を書き入れて行く中で、道路や鉄道、港や空港といった工業と交通の関係に気づかせていくことができた。そしてそこから、次単元の「宅配便」の学習へとスムーズに展開することができた。まさに、この1枚の「拡大した白地図」が社会科学習の基本ともいえる、連続した課題解決的な学習への「潮目」となったのである。